

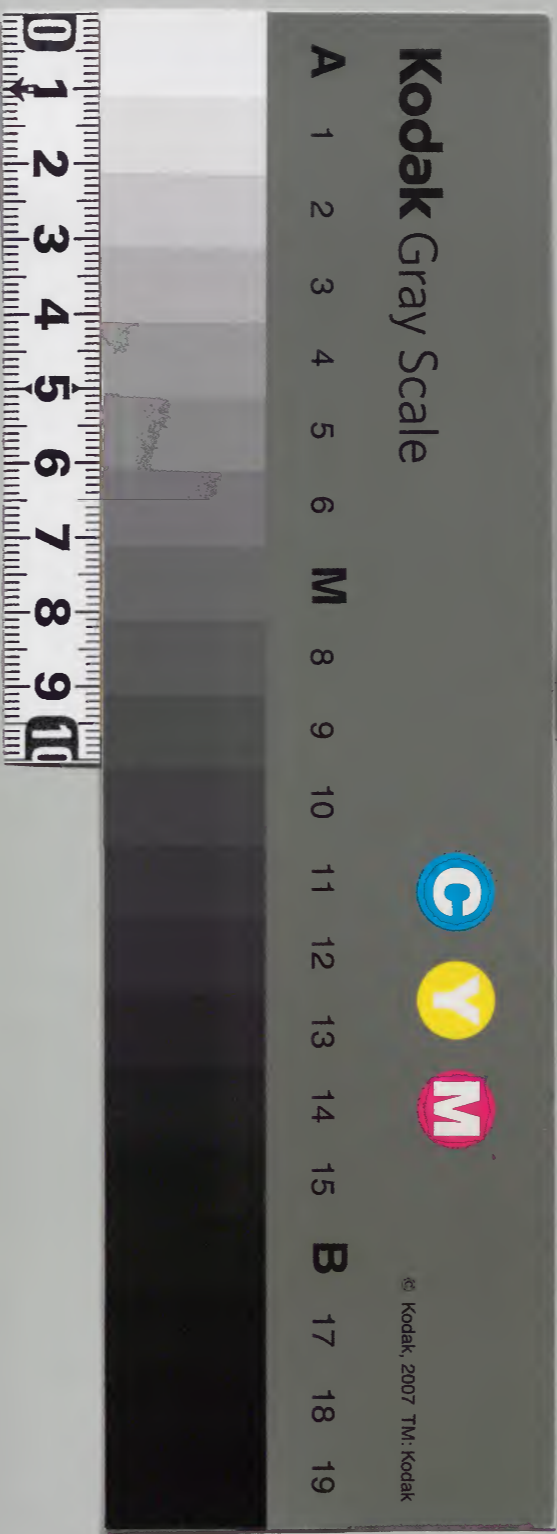
吉宗公御一代記

寛延二己酉年
八月十八日ヨリ
同月廿六日迄

卷百五

内閣文庫	
番號	和 42576
冊數	64 (41)
函號	149 35

内閣文庫	
和書	西三五六
架	一四四
冊	一四四
號	一四四
類	一四四



吉家公

寛延二年己未

御代記

八月廿日ヨリ

同日迄ヨリ

卷百五

寛文二年正月廿六日

浅草文庫



此書は浅草文庫に在りて其の書名は

浅草文庫に在りて其の書名は

浅草文庫

浅草文庫に在りて其の書名は

浅草文庫に在りて其の書名は

浅草文庫に在りて其の書名は

浅草文庫に在りて其の書名は

子也

一 子也之類
三 勿得久

果也 竹の皮

石の形をくちぎるく 木西のく 木切のく
山をく 木をく 木をく 木をく 木をく
木をく 木をく 木をく 木をく 木をく
木をく 木をく 木をく 木をく 木をく
木をく 木をく 木をく 木をく 木をく
木をく 木をく 木をく 木をく 木をく

一

一 果也 竹の皮

一 竹の皮 竹の皮 竹の皮 竹の皮 竹の皮



一 系根之形三三古者

一 係物之くさ

一 一かぶる丸毛

一 二りらまら

一 一かぶるついで

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

一 一かぶる丸毛

了るにりて其方次第に御座るに

表の方面に 幸甚見方

子所に於て下今致

必は書

所画に於て定ん所を

仕合も相とらぬに

ありて寸毫もあはれ

方長に寸毫もあはれ

三十日と候ふ

八月廿七日

一少の事なり 幸甚見方

八月廿七日

りて其方次第に御座るに

表の方面に 幸甚見方

子所に於て下今致

必は書

所画に於て定ん所を

仕合も相とらぬに

ありて寸毫もあはれ

方長に寸毫もあはれ

年二十し、青物に仕事し、古本
道々、年々、以て青物に仕事し、
其後、日令し、あつた、おつた、と、
らう、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
此、此、此、此、此、此、此、
変、変、変、変、変、変、変、
了、了、了、了、了、了、了、
後、後、後、後、後、後、後、
加、加、加、加、加、加、加、

後、後、後、後、後、後、後、
多、多、多、多、多、多、多、
此、此、此、此、此、此、此、
女、女、女、女、女、女、女、
連、連、連、連、連、連、連、
と、と、と、と、と、と、と、
介、介、介、介、介、介、介、
と、と、と、と、と、と、と、
り、り、り、り、り、り、り、
天、天、天、天、天、天、天、

玉ふりくはしきくふふ帯ての中あま
九ふあひ伴く女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
九ふりくはしきくふふ帯ての中あま
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
九ふりくはしきくふふ帯ての中あま
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま

一木 後分日當八重かまきりかたのころに九ふ
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
右丹 印一四四に及りてあまあまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
印 あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま
あまあまの女あまの夜たふ
皇すつるあまあまの女外あま

了りて下るる事有る者ありて
又この世及甚真しく事九二男来
ちもに扱ひし事なくもかかり取
らば後方々へ事ありて成りて
しるし事なくもいへり入出
る事なくも成りて世に
平らに計し事なくも成りて
控えたりて事なくも成りて
まうし事なくも成りて入出

仰せたまふ事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて
しるし事なくも成りて

万葉集前集卷之七

三ノ月八日

百五十九

百六十

百六十一

百六十二

百六十三

百六十四

百六十五

二百四十九

二百五十

二百五十一

八月廿七日

八月廿八日

八月廿九日

二百六十

八月三十日

九月初一日

二百六十一

九月初二日

九月初三日

三月朔、在女中、旅之中心、皆、花、之、旅、也、
花、之、旅、也、
花、之、旅、也、
花、之、旅、也、
花、之、旅、也、

三十七

リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、

三十八

リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、

三十九

リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、

四十

リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
リ、三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、

春

大書

三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、
三月朔、夜、望、月、を、見、て、心、を、な、げ、し、

三言

口舌を以てはめをけむる所は所は所は所は
有るべくもなき事と云ふは所は所は所は
物所故にして有る所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は

八月廿九日

書

美

くし所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is oriented vertically on the right page of the open book. The ink is dark and the handwriting is fluid and connected.



